北陸地方整備局 羽越河川国道事務所
記　者　発　表

平成２２年３月１６日

取扱い	配布を持って解禁

荒川の浸水想定区域の変更について

～効果的な地域の洪水避難体制を目指して～

北陸地方整備局管内の荒川について、「浸水想定区域」を平成 14 年 4 月 30 日に公表済みですが、3 月 16 日に変更し、同日公表します。

今回の変更のポイントは、

○横川ダムの完成（H20．3）、洪水調節効果を見込む

○盛土地形の変化（日沿道、荒川道路の建設等）

これにより、ハザードマップを更新作成する自治体においては、荒川の洪水氾濫の状況をより実態に近い条件で把握することが可能となり、効果的な地域の避難体制の検討やハザードマップの更新が進むものと期待されます。（詳細は次ページのとおり）

同時発表記者クラブ
毎日新聞（新発田通信部） 新潟日報（村上支局） 村上新聞社 いわふね新聞社

問い合わせ先
国土交通省　北陸地方整備局 羽越河川国道事務所 副所長（河川担当）　大井　孝輝 調査・品質確保課長　長谷川　達也 TEL：0254-62-3211(代)

（別紙）

1. 近年の河川整備の着実な進捗により、大河川の氾濫頻度は減少し、住民の水害に対する意識が希薄化しています。一方で、都市化の進展に伴う人口及び資産の集積により、ひとたび氾濫が発生した場合、被害は甚大なものになる恐れがあります。こうした背景から、平成 13 年 7 月 3 日に水防法の一部が改正、施行され、水災による被害の軽減を図ることを目的に、「浸水想定区域」の指定が義務付けられました。

   【参考】浸水想定区域は、洪水予報河川が河川整備の計画降雨によりはん濫した場合に浸水が想定される区域として指定されるものです。

2. 荒川での「浸水想定区域」は平成 14 年 4 月 30 日に指定、公表済みですが、今回、横川ダムの完成に伴う洪水調節量の増、並びに日本海沿岸東北自動車道などの道路盛土による地形の変化など、浸水想定区域の変更が見込まれたため、3 月 16 日に変更し、同日より公表いたします。

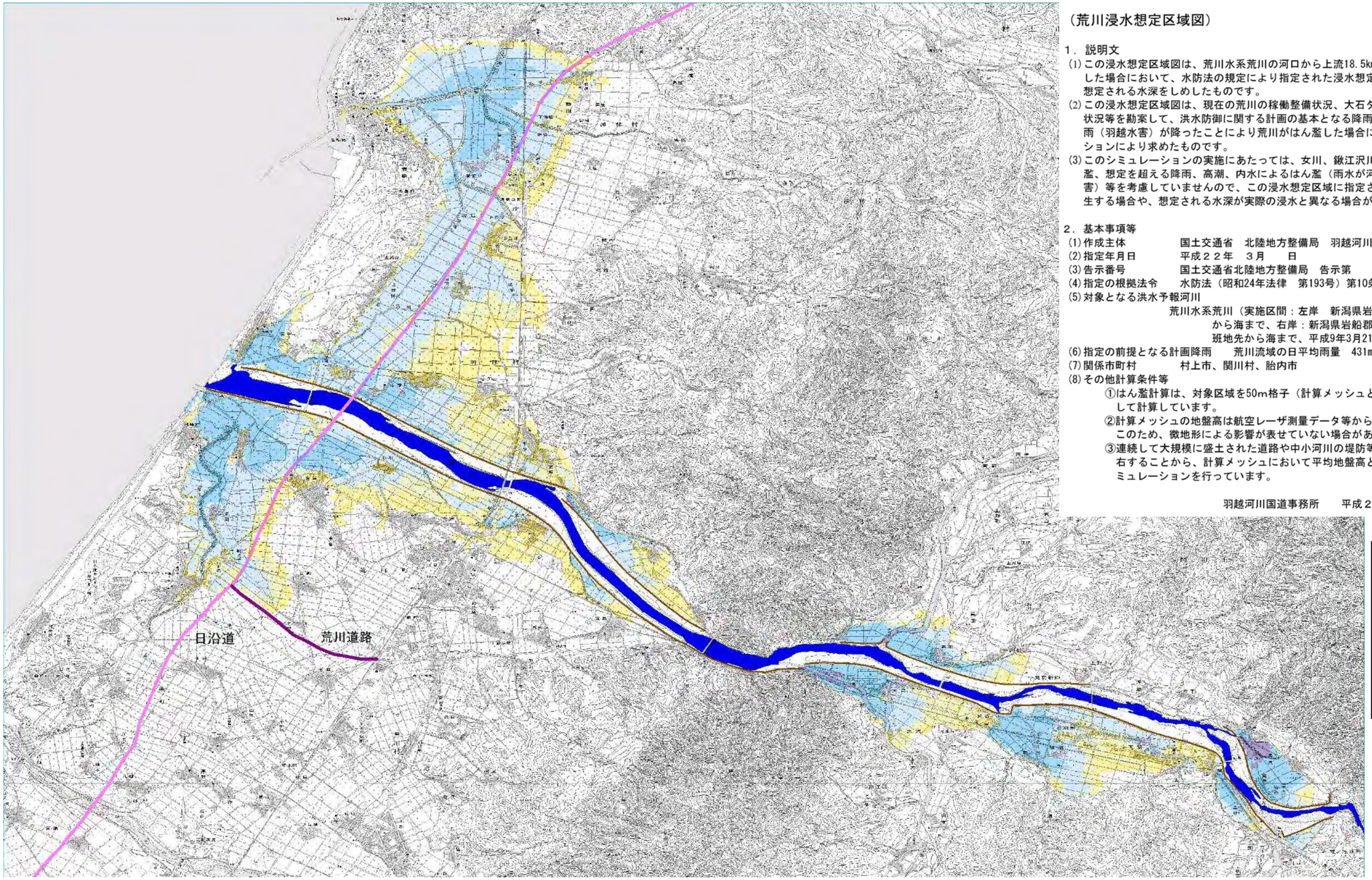
3. 今回変更した荒川では、浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深その他を示した図面「浸水想定区域図」を作成公表いたします。

4. 今回指定した河川の浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深その他を表示した図面（浸水想定区域図）は、下記のとおり羽越河川国道事務所において、3 月 16 日より閲覧に供するとともに、関係市町村に通知します。

   ・羽越河川国道事務所
   住　　所：新潟県村上市藤沢 27-1
   電　　話：0254－62－6038
   担　　当：調査・品質確保課　水防企画係
   縦覧時間：9：00～17：00

5. 関係市町村は、水防法に基づいて、当該浸水想定区域ごとに市町村地域防災計画に定められた洪水予報の伝達方法、避難場所等について住民に周知するよう努めることとされていますが、その際、浸水想定区域図の情報等を活用して、避難場所等を記載した「洪水ハザードマップ」を作成・活用することが期待されるところです。

荒川水系荒川　浸水想定区域図（Ｈ２２年３月告示）



（荒川浸水想定区域図）

１．説明文

(1)この浸水想定区域図は、荒川水系荒川の河口から上流18.5km地点までの洪水予報区間で洪水氾濫した場合において、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深をしめしたものです。

(2)この浸水想定区域図は、現在の荒川の稼働整備状況、大石ダム、横川ダムの洪水調節機能施設の状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね100年に１回程度起こる大雨（羽越水害）が降ったことにより荒川がはん濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。

(3)このシミュレーションの実施にあたっては、女川、鍬江沢川等の支派川や隣接する胎内川のはん濫、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん濫（雨水が河川に排水できなくなり生じる浸水被害）等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水と異なる場合があります。

２．基本事項等

(1)作成主体　　国土交通省　北陸地方整備局　羽越河川国道事務所
(2)指定年月日　　平成２２年　３月　　日
(3)告示番号　　国土交通省北陸地方整備局　告示第　　号
(4)指定の根拠法令　　水防法（昭和24年法律　第193号）第10条の4第1項
(5)対象となる洪水予報河川
荒川水系荒川（実施区間：左岸　新潟県岩船郡関川村大字下川口557番の１地先から海まで、右岸：新潟県岩船郡関川村大字湯沢字湯沢山国有林402林班地先から海まで、平成9年3月21日付け運輸省・建設省告示第3号）
(6)指定の前提となる計画降雨　　荒川流域の日平均雨量　431mm
(7)関係市町村　　村上市、関川村、胎内市
(8)その他計算条件等
①はん濫計算は、対象区域を50m格子（計算メッシュという）に分割して、これを１単位として計算しています。
②計算メッシュの地盤高は航空レーザ測量データ等から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が表せていない場合があります。
③連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については、はん濫水の広がりを左右することから、計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。

羽越河川国道事務所　　平成２２年　３月

凡　例
- 0.5m 未満
- 0,5～1.0m
- 1.0～2.0m
- 2.0～5.0m
- 5.0m 以上

荒川　浸水想定区域図の変更について　参考資料

（横川ダムの概要、盛土地形の変化、氾濫被害の比較）

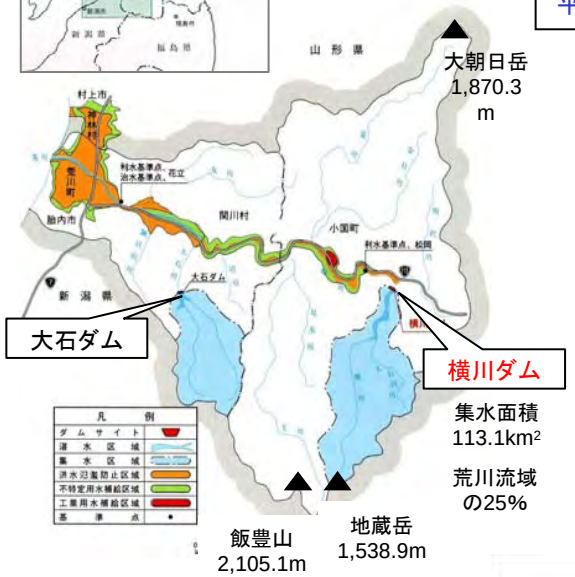
平成 22 年 3 月 16 日

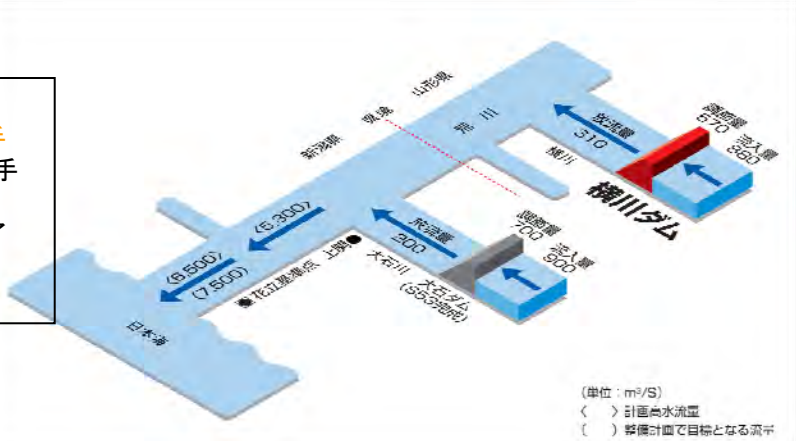
北陸地方整備局河川部

羽越河川国道事務所

■ 横 川 ダ ム の 概 要

昭和42年8月28日　羽越水害発生
平成2年6月11日　横川ダム建設に着手
平成15年3月　横川ダム本体建設に着手
平成19年9月　横川ダム試験湛水開始
平成19年12月　横川ダム試験湛水完了
平成20年3月　横川ダム完成
平成20年4月　横川ダム管理移行

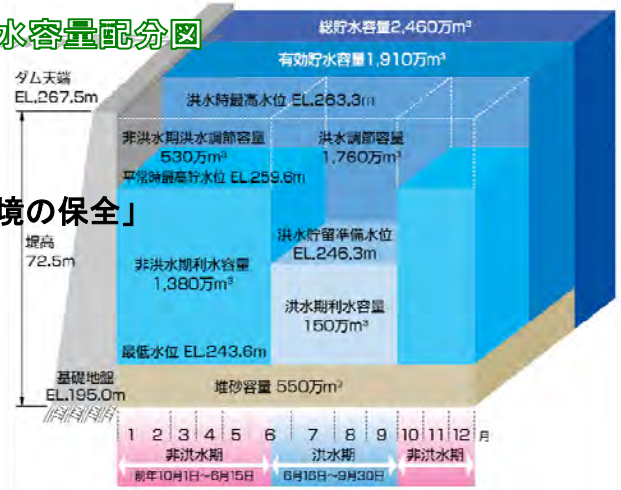


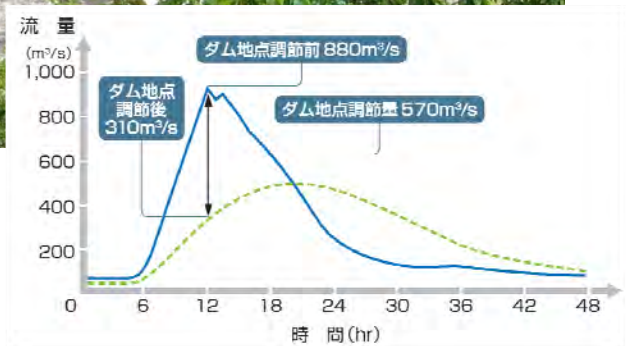


ダム本体の諸元

形式	重力式コンクリートダム
堤高	72.5 m
堤頂長	277 m
堤体積	239,800 m3
貯水池の諸元	
集水面積	113.1 Km²
湛水面積	1.55　Km²
総貯水容量	2,460 万m3
有効貯水容量	1,910 万m3

貯水容量配分図





自然調節方式による洪水調節方式

横川ダムの目的

1．洪水調節

2．「既得取水の安定化」「河川環境の保全」
　　のための流量の確保

3．工業用水の供給《小国町》

4．水力発電《山形県企業局》

○盛土地形の変化（日沿道、荒川道路の建設等）

○氾濫被害の比較

氾濫被害の比較表

	浸水面積（ha）	浸水人口（人）	浸水家屋（戸）
Ｈ１４浸水想定区域図	3,730	12,398	3,134
Ｈ２２浸水想定区域図	3,230	9,582	2,250
減　　少	500	2,816	884